

ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの検討状況 [報告]

1. 開催日程及び出席者

- ・ 平成 24 年 5 月 18 日（金）、全省庁共用 1214 特別会議室にて、ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WG（第 1 回）を開催。
- ・ 武田委員、塚本委員、成戸委員、馬場委員、松八重委員、齊藤氏（児玉委員代理）、奥村議員（総合科学技術会議議員）が出席。
関係府省からは、文科省、厚労省、経産省、国交省及びそれぞれの関係研究機関が出席。

2. 議事概要

(1) ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの運営について
案が了承された。

(2) 主査互選

主査：一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会 塚本建次副会長を選任。

(3) ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの検討の流れについて

ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WGの当面の進め方について検討し、案が了承された。

[主な意見]

- ・ ナノテクノロジー・材料に関する政府施策全体の把握と予算額の集計が必要。

(4) 技術ポテンシャルマップ（仮称）について

技術ポテンシャルマップ（仮称）（広くナノテクノロジー・材料技術が 10 年後に達成する技術レベル（技術ポテンシャル）を網羅的に俯瞰）について検討した。

[主な意見]

- ・ 内容の充実を図るには、研究独法のいっそうの協力が必要。
- ・ 産業による分類と技術による分類が混在しているため、整理が必要。
- ・ 掲載する技術の粒度にばらつきがあり、整理が必要。

(5) 重点化の考え方について

ナノテクノロジー・材料技術に関する重点化の考え方について検討した。

[主な意見]

- ・ 創出される産業の規模や競争上のポジショニングの視点も必要。
- ・ 経産省がすでに策定している技術戦略マップは参考になる。
- ・ 技術の波及効果は、それ自体の産業規模に、その下流に位置する産業を加えて考えるべき。
- ・ 10 年後の日本の産業を強くするものという発想で大括り化して検討すべき。
- ・ WGの成果は戦略協議会へ提案するものであることを意識する必要がある。

- ・ 互いに重なる視点、解釈がばらつきそうな視点がある。2軸にこだわる必要はない。
- ・ 安全性に関する視点が必要。
- ・ 重要技術でも出口がイメージできない場合もある。

3. 今後の予定

- ・ 第2回
日時：5月30日（水）13:00～15:00
場所：全省庁共用 1214 特別会議室
議題：重点化技術の検討について等

以上

(参考)

ナノテクノロジー・材料共通基盤技術検討WG名簿

平成 24 年 5 月 18 日時点

(五十音順)

- 菊地 眞 財団法人医療機器センター 理事長
(ライフイノベーション戦略協議会構成員)
- 児玉 敏雄 三菱重工業株式会社 執行役員 技術統括本部 副本部長
(復興・再生戦略協議会構成員)
- 武田 晴夫 株式会社日立製作所 研究開発本部 技術戦略室 室長
(グリーンイノベーション戦略協議会構成員)
- 塚本 建次 一般社団法人ナノテクノロジービジネス推進協議会 (NBCI) 副会長
昭和電工株式会社 技術顧問
- 成戸 昌信 東レ株式会社 常任理事 医薬・医療信頼性保証室長
(ライフイノベーション戦略協議会構成員)
- 馬場 寿夫 独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー
- 松下 祥子 国立大学法人東京工業大学大学院 理工学研究科 准教授
(グリーンイノベーション戦略協議会構成員)
- 松八 重一代 国立大学法人東北大学大学院 工学研究科 准教授
(復興・再生戦略協議会構成員)

(総合科学技術会議)

奥村 直樹 総合科学技術会議 議員

関係府省

文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、関係研究機関